



夏休み中に、初めて広野町に帰って来た時私は、とても驚きました。まるで、時が止まったようだったのです。町の明るさがなく、とても静かで、寂しかったです。ですが今は、復興も進み、町が、とても元気になってきたと思います。私は、とても嬉しいです。これからも、どんどん町が元気になっていくことを祈っています。

放射能に多少の不安がありますが、復興のために、自分ができることがあるのなら、自ら進んで、少しでも、広野町の役に立ちたいと思っています。

私は、今回の震災で、改めて、広野町の素晴らしさを考えました。住んでいた当時は、何とも思っていなかったけれど、離れてみて自分は、本当に広野町が好きだったんだなあと、思います。海と山に囲まれ、明るい人がたくさん住んでいる広野町が大好きです。



春、役場前の桜が咲き夏、サマーフェスティバルで友達と見た花火、秋、童謡歌祭り、で一生懸命広野賛歌を唄いまだ寒い初春、みかんロードレース大会で汗を流し・・・前年当り前に過ごしてきた広野町での生活。しかし昨年、の原発事故以来広野を離れることになりそんな当り前がとて

も素晴らしい事だったと実感した。今の広野町、よく見れば2年前とは色々違う。よく散歩に行った海の堤防は流されてしまい町内には仮設住宅、私の家の前には復旧作業にあたる寮も出来て。違う風景にはなったがやっぱり好きです。広野町。小学校から今までの登下校ぬくもりのあるあいさつをしてくれた地域の方々、私達学生を常にそばで見守ってくれました。そんな温かい人情あふれる広野町。二学期から故郷へ戻り当り前の幸せを一つ一つ実感しています。苦しい事もたくさんありますが、一步一步前進して少しずつ以前の「広野町」に戻れる事を信じてます。東北に春を告げる元気一杯の町広野！

広野への想い



ていてくれました。

しかし、町のようすはかわってしまいました。とってもさびしい町になってしまい、かなしいです。でもぼくは、この町がすきだから帰ってきました。この町は、しぜんがいっぱい。この町は、気持ちいい風がふく。この町は、星がきれい。この町はいっぱい、いっぱいぼくの思い出がある。そして、これから新しい思い出を作っていきます。新しい広野町として、みんなが帰りたい。なる広野町になればうれい。みんな、早く帰ってきてね。いっしょにべんきょうしたりしようよ。まっています。

原発事により、広野町から人がいなくなりました。ひなん中は、夜になると、ふとんの中で、「地しんのバカ、原発のバカ」となきながら、さけぶこともありました。あれから1年半たって、広野町にもどってきました。ぼくの家は帰ってくるのをずっとま

ふるさと

作文



広野にかえてまたあそびたいです。はやく広野のおうちに見たいです。広野のいろんなところにあそびに行きたいです。二つぬまこうえんに行っていてん車であそびたいです。みんなとまたあそびたいです。すぐくあそびたいです。はたけでいっぱい野さいをつくりたいです。ばあちゃ

んといっしょにはやくすみたい。ぼくは、つきじがおかからみえるうみのけしきがとてすきでした。おかあさんといっしょにじてん車にのってつきじがおかからまたうみをながめたいです。みかんのおかにもみかんをつみに行きたいです。あのしあわせだ。たまいにちをとりのどした。です。広野のじたくからあるいて広野小学校に行きたいです。ごしゃ山にドライブに行つてしりんよくをしてきたいです。岩さわかい水よくじょうに行つてかい水よくをした。い。Jヴィレッジにサッカーのしあいを見に行きたいです。はやく広野町がふっこうすればいいと思っています。